

SFRR Japan NEWSLETTER

June 13, 2013



Top News

SFRR International 2014 シンポジウム 決定!

17th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research International (SFRR I 2014)



日 時: 2014年3月23日(日)~26日(水) [4日間]
会 場: 国立京都国際会館
(京都市左京区宝ヶ池)

昨年より公募を行っておりました SFRR I 2014のプログラムの中核を担うシンポジウムが、International Scientific Program Committeeによる厳正な審査を経て、20セッション決定しました。(詳細次頁参照)

一般演題公募の開始は、7月初旬を予定しています。詳細は、学会HPをご確認ください。

学会HP: <http://www.sfrr2014.org/index.htm>

関連国際学会における若手奨励賞 Young Investigator Award 公募中

日本酸化ストレス学会では、2年に一度開催される SFRR International ならびに SFRR Asia Biannual Meeting において、若手奨励の為の賞を設けております。(副賞2万円×5名) 更に、上部組織であるSFRR Asiaよりは、下記3件の賞が設定されています。

- SFRR Asia Award
- Informa Healthcare young investigator award
- Informa Healthcare prestigious poster award

今年、10月に台湾において開催の第6回SFRR Asiaにおいて授与予定です。是非多くのご応募をお待ちしております。(詳細後述参照)

【次年度 学術集会のお知らせ】

1. 日 時: 2014(平成26)年9月4日(木)~5日(金)
2. 会 場: 京都テルサ
〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70番地
(新町通九条下 京都府民総合交流プラザ内)
tel: 075-692-3400 fax: 075-692-3402
<http://www.kyoto-terrsa.or.jp>
3. 会 長: 野口 範子 (同志社大学生命医科学研究科 教授)



♪ 会長より一言 ♪

3月に開催されますSFRR Kyotoに続き、同じく京都で開催予定の本会の会場は京都駅にほど近い便利な場所にあります。国際会議で十分語りつくせなかったこと、さらに議論を深めたい研究内容、そしてホットな話題などを思い存分ご発表ご議論いただければと思います。残暑厳しい京都で熱い議論が聞かれることを祈念しております。



◇◇◇ 年次学術集会案内 ◇◇◇

第66回日本酸化ストレス学会学術集会

日 時: 2013(平成25)年6月13日(木)~14日(金)
会 場: ウィンクあいち (JR・名鉄・近鉄名古屋駅から徒歩5分)
〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目4-38
TEL: 052-571-6131, FAX: 052-571-6132,
<http://www.winc-aichi.jp>



開催のご挨拶

会 長: 豊國 伸哉
(名古屋大学大学院医学系研究科
病理病態学講座生体反応病理学教授)

このたび、愛知県名古屋市におきまして第66回日本酸化ストレス学会学術集会を開催させていただきますことをたいへん光栄に思います。ここ東海地方におきましては、一昨年度日本酸化ストレス学会東海支部が新たに結成されました。日本の酸化ストレス研究のひとつの源流(名大生化学・八木国夫教授)ともいえるこの地域の多数の大学が有機的に融合しながら酸化ストレス研究のホットクラスターに成長していくことを期待しています。私自身京大医学部3年生の学生のときに初めて研究活動に出逢ってから(翠川 修教授・岡田 茂講師)すでに30年余が経過していますが、ヒトの病気を研究すればするほど、「酸化ストレス」の重要性を改めて認識する毎日です。本会におきましては、「酸化ストレス」研究がさらに飛躍的に発展することを祈念して、下記の内容を含めた意欲的なプログラムを準備させて頂きました。

教育講演として、祖父江 元 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 神経内科学 教授)に「神経変性疾患の病態に基づく治療への展望」をテーマに話をさせていただきます。日本人の高齢化に伴い、ますます重要になってくる認知・運動機能の維持に関わる研究の最新知見を勉強できるチャンスです。特別講演は2つあり、貝淵 弘三 先生(名古屋大学大学院医学系研究科 神経情報薬理学 教授)には「タンパク質のリン酸化の網羅的解析法の開発と展望」の話をさせていただきます。細胞内シグナル伝達の根幹であるタンパク質のリン酸化に関する最新知見をご紹介します。リン酸化とレドックス研究とのクロストークが注目されます。特別講演2は堀 勝先生(名古屋大学大学院工学研究科 集積プロセス講座 ナノプロセス 教授)による「大気圧・液中プラズマの医療応用におけるフリーラジカル」です。プラズマとは、プラズマテレビのプラズマ、あるいは雷に関わるプラズマであり、固体でも液体でも気体でもない第4の物質状態です。これはごく最近話題になってきた分野であり、工学分野から医学生物学分野へ今、大きな進展がみられようとしています。学会賞講演は安西和紀先生(日本薬科大学)に、学術賞講演は吉田 康一先生(産業技術総合研究所)にご発表いただきます。また、恒例となっております学術奨励賞候補講演も1日目の朝一番におこなわれます。

名古屋には、名古屋城・熱田神宮・徳川美術館に代表される「歴史・武家文化」、ものづくりの現場を見学できる「産業観光」、ショッピングやグルメ(セントレアやタワーズはお勧めです)、動物園や水族館など「都市のアミューズメント」もあります。学会の合間あるいは学会後には、是非名古屋を十分に堪能されてからお帰りください。本学術総会におきまして研究者同士の多くの出会いが生まれ、それが日本の科学の発展に少しでも寄与できましたら私の望外の喜びです。

本学術集会に御参加の皆さまに改めて御礼申し上げます。



Plenary Lectures and Symposia

第17回国際フリーラジカル学会(SFRR 2014)における
特別プログラム(予定)

2014年3月23日(日)~26日(水)の3日間、国立京都国際会館において
開催予定の第17回国際フリーラジカル学会での、特別プログラム(プレナ
リーレクチャー/シンポジウム)の概要が決定しました。

Plenary Lectures

- SFRR Trevor Slater Award Lecturer
- JCBN Lecture
- Informa Lecture 他 計4-5講演を予定。

Symposia

No.	Symposium Title (Tentative)	Coordinator & Chair (Candidate)	Country
1	Redox-active iron in disease pathology and treatment	Toyokuni, Shinya Richardson Des	Japan Australia
2	Cutting-edge chemical tools	Nakagawa, Hidehiko Bottle, Steven	Japan Australia
3	Oxidative protein folding and ER stress	Fujii, Junichi Ron, David	Japan UK
4	Redox biology of insulin and its resistance	Cadenas, Enrique Steinbrenner Holger	USA Germany
5	Nrf2: a regulator of redox signaling and antioxidant defenses in health and disease	Mann, Giovanni Forman, Henry	UK USA
6	Free radicals, radiation, hormesis and health	Calabrese, Eduardo J Anzai, Kazunori (Proposer: Packer, Lester)	USA Japan
7	Redox-based regulation of cellular processes	Yodoi, Junji Rhee, Sue Goo	Japan Korea
8	ROS in neurodegenerative diseases	Jackson, Malcolm J. Van Remmen, Holly	UK USA
9	Signal network of ROS, NO and S-nitrosothiols	Chen, Chang Pompella, Alfonso	China Italy
10	Modulation of oxidative processes by gaseous molecules	Cepinskas, Gediminas Akaike, Takaaki	Canada Japan
11	Antioxidants: chemistry meets epidemiology	Traber, Maret Niki, Etsuo (Proposer: Forman, Henry J.)	USA Japan
12	New insights and current concepts of aging	Ikeno, Yuji Ladiges, Warren	USA USA
13	Redox molecular imaging	Ichikawa, Kazuhiro Halpern, Howard J.	Japan USA
14	Power struggle between repair and cell death	Noguchi, Noriko Darley-Usmar, Victor	Japan USA
15	Oxidative damage of proteins/amino acids and its consequences	Davies, Michael J. Gebicki, Jan M	Australia Australia
16	Oxidation of DNA/RNA and signaling by poly(ADP-ribosylation)	Hawkins, Clare L. Virag, Laszlo	Australia Hungary
17	New aspect of antioxidative therapy	Hirayama, Aki Nagasaki Yukio	Japan Japan
18	The Yin and Yang of redox host defense against infection	Mantell, Lin L. Gollet, Jean	USA Belgium
19	Oxidative stress and autophagy	Zhang, Jianhua Tanaka Keiji	USA Japan
20	Reactive oxygen species in non-apoptotic cell death signaling and necroptosis	Conrad, Marcus Vandenabeele, Peter	Germany Belgium

昨年11月~今年2月まで、広くSFRR International関係各位宛に
シンポジウムの企画公募を行い、総数40件のシンポジウム(案)
から、International Scientific Program Committee※により厳正な
査読審査を経て、International Advisory Committee ならびに
SFRR Internationalの承認を得て、詳細が確定しました。

※International Scientific Program Committee (ISPC)国内委員
豊國伸哉(委員長)・赤池孝章・市川和洋・浦野泰照・鈴木秀和・
中川秀彦・野口範子・半田 修・平山 暁・藤井順逸・馬嶋秀行

ロンドンから1年半で開催というスケジュールでしたが、世界中か
ら多数のシンポジウムの御提案をいただき、誠にありがとうございました。
今回は既存の枠組みを残しつつも多彩な新しいコンセプトに柔軟に対応するため、
シンポジウム数を20に設定したのが大きな特徴です。福島放射線や疫学の問題に
始まり、老化・動脈硬化・糖尿病・神経変性疾患・感染症・オートファジー・ER
ストレスなどの病態解析、さらにはNrf2・鉄・レドックス蛋白質・ガス分子な
どの特定分子へのフォーカス、最後にはイメージングや治療まで、ありとあら
ゆる角度からフリーラジカルの生物学的意義にアプローチできるプログラムが
できたのではないかと自負しています。このような議論の中から、ヒトの健康増進
を中心とした社会還元が少しでもできるなら大変うれしく思います。

SFRR 2014 Chairs: 内藤裕二・豊國伸哉

一般演題の公募: 7月初旬を予定。
是非多くの演題をご応募下さい。

<http://www.sfri2014.org/index.htm>

◆◆◆ 関連学会報告◆◆◆

International Free Radical Winter School in Muikamachi 2013

会期: 2013年3月10日(日)~13日(水)
会場: 上越六日町高原ホテル



International Free Radical Winter School in Muikamachi 2013を終えて

2013年3月10日(日)~13日(水)の4日間にわたり新潟県南魚
沼の上越六日町高原ホテルにおいてInternational Free
Radical Winter School in Muikamachi 2013を開催いたしま
した。年度末の忙しい時期にもかかわらず29名の参加者(外国人
講師は2名、日本人講師16名、聴講生11名)が集い、逃げ場の
無い雪深い山の中で缶詰になって勉強しました。少数ながらも中
身の濃い勉強会となり、聴講生だけでなく講師陣も有意義な時間
を過ごすことができました。勉強の後は温泉と美味しい食
事で疲れを癒して、若い世代からシニアまで世代を超えて交流を
深めることもできました。聴講生に呼びかけたPoster発表の中
から、田村磨聖君(筑波大学)に最優秀Poster賞、上野恵美さん
(放医研)、野村昌吾君(東京理科大)、小川幸大君(東邦大)、川
島知憲君(放医研)にPoster賞を授与しました。参加者のうちの
何名かはスキーも満喫したようです。初めての試みで行き届かない
ところも多々ございましたが、なんとか成功裏の内に終えること
が出来ましたことを感謝いたします。

主催: 松井裕史(筑波大)、文責: 松本謙一郎(放医研)



※8月にFree Radical School in 館山2013を開催予定です。

◇◇◇ 関係各賞公募について ◇◇◇

日本酸化ストレス学会では、様々な賞を設けております。

【学会賞】その業績が日本の酸化ストレス研究を代表しかつ世界に通用するものであり、本会の運営あるいは発展に特に顕著な功績のあった研究者に対し授与。(会員歴10年以上)

【学術賞】過去の研究歴ならびに業績より総合的に判断し、本学会ならびに世界において今後の顕著な活躍が期待される者に対して授与。(会員歴5年以上・50歳以下)

【学術奨励賞】酸化ストレス研究の進歩に寄与する顕著な研究を発表し、将来発展の期待される研究者に対し授与。(会員歴3年以上・男性40歳以下/女性45歳以下)年次研究会への演題応募と同時に応募の事。

【八木記念学術奨励賞】JCBNでの前年度1年間の発表の原著論文執筆者(会員・男性40歳以下/女性45歳以下)
※詳細は、会則・細則をご参照下さい。

毎年公募をしておりますので、是非、多くのご応募宜しくお願い致します。

【Young Investigator Award】 (YIA)

若手研究者奨励の為に、SFRR International/SFRR Asia Biannual Meetingでの発表者に YIA (奨励賞) を授与しております。
日本酸化ストレス学会 奨励賞 5名程度

上記以外に上部組織であるSFRR AsiaのYIAも毎年授与予定されておりますので、是非ご応募下さい。

◇◇◇ 関連学会 開催案内 ◇◇◇

以下の関連学会情報は予定を多く含みます。変更などが生じる可能性もありますので、詳細については、各主催団体にお問い合わせ下さい。また、学会HPにても随時情報を掲載予定です。

6th Joint Meeting of SFRR A+J (SFRR A+J2013)

会 期:2013年9月12日(木)~14日(土)

会 場:シドニー・オーストラリア

※演題公募ならびに参加募集が開始しました!



6th Joint Meeting of the Societies for Free Radical Research Australasia and Japan
September 12-14, 2013
Mercure Sydney Hotel, SYDNEY Australia

Abstract submission and registration are now open
Please visit our website for more details:
<http://oxidation2013.org.au>
Abstract submission and early bird registration deadline: 30 June 2013

Free Radical School in 館山 2013

会 期:平成25年8月7日(水)~9日(金)

会 場:筑波大学館山研修所

〒294-0045館山市北条2861

TEL0470-22-1942

(外房線館山駅から徒歩3分)

事務局:参加申し込み希望者は筑波大松井、放医研松本まで。



2013年度関東支部会年会

会 期:平成25年12月21日(土)

会 場:日本薬科大学キャンパス

会 長:安西和紀(日本薬科大学教授)

事務局:神奈川県大薬理学教室(李研究室)



6th Biennial Meeting of Society for Free Radical Research Asia "Oxidative Stress and Mitochondrial Alterations in Ageing and Disease"

Date: October 16th to 19th, 2013

Venue: The Second Medicine Building, Chang Gung University
(259 Wen-Hwa 1st Road, Kwei-Shan Tao-Yuan, Taiwan, 333,
R.O.C.) TEL: +886-3-2118800

President: Prof. Daniel Tsun-Yee Chiu (President of SFRR Taiwan)

詳細は: <http://www.sfr-asia2013.org>

Important Dates

Deadline of Abstract Submission: Friday, June 28, 2013

Notification of Abstract Acceptance: Friday, August 2, 2013

Deadline of early-bird registration: Friday, August 16, 2013

Deadline of on-line registration: Friday, September 20, 2013

YIAを公募しております。

☆☆☆事前公募となっております。是非、奮ってご応募下さい。☆☆☆
※SFRR Asia ならびに SFRR Japanの双方に申し込んでも結構ですが、受賞はSFRR Asiaが優先され、両方を受賞することは出来ません。

【応募書類】 (MS Wordの添付ファイルにてお送り下さい。)

→ SFRR Asia YIA:

・応募抄録 (英文) ※6th SFRR Asiaに演題応募済みのもの!

・略歴(A4 1枚程度) (英文) ★生年月日・性別は必ず記載下さい。

・送信先: SFRR Asia 事務局

sfrasia@koto.kpu-m.ac.jp

→ 日本酸化ストレス学会 YIA

・応募抄録 (英文) ※6th SFRR Asiaに演題応募済みのもの!

・略歴(A4 1枚程度) (和文) ★生年月日・性別は必ず記載下さい。

・送信先: 日本酸化ストレス学会 事務局

sfrj@koto.kpu-m.ac.jp



各メールアドレス宛、
添付ファイルにてお送り下さい。
応募締切:2013年6月28日(金)

※上記以外に、Travel Awardが2013年より新設される予定ですが、今年のSFRR Asiaの際には日本よりの参加者は対象外となっております。

第30回臨床フリーラジカル会議

会 期:2013年12月13日(金)p.m.~14日(土)a.m.

会 場: 烟河(けぶりかわ) 会議室 (京都府亀岡市)

〒621-0251 京都府亀岡市本梅町平松1-1

TEL 0771-26-2345

<http://www.keburikawa.com>

当番世話人: 吉川 敏一

(京都府立医科大学学長)

問い合わせ先: 臨床フリーラジカル会議 事務局

京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内

e-mail: handao@koto.kpu-m.ac.jp

参加者が同じ場所に宿して、昼夜を問わず交流することで知己を増や素事を目的に、今年も宿泊を伴う研究会を予定しております。

今年で記念すべき30回を迎え、これまでの当該分野で経験を積んだ世話人の推薦により現在最も活動性が高い研究者の講演で最新の知識を共有するというセッションと、若手研究者が中心となって自らの研究成果を公表し、それに対してエキスパートが助言をおこない、より優れた研究に導くというセッション、双方の構成を継承しつつ、更なる展開を語りたと思っています。

取り上げて欲しいテーマなどがありましたら、上記メールアドレス事務局までお寄せ下さい。



◇◇◇ SFRR ASIA News ◇◇◇

SFRR Japan (日本酸化ストレス学会)は、SFRR International 並びにSFRR Asiaの下部組織です。日本酸化ストレス学会の会 員の方は自動的に両国際組織のメンバーとなっております。

【Official Journal of SFRR Asia】 Free Radical Research is the official journal of the Society for Free Radical Research



会員特別価格での定期購読の 受付を行っています!!!

Special online subscription rate of 75 UK pounds per year (January 1 to December 31; individual basis, not institutional).

http://www.informaworld.com/smpp/title~content=t7136426 32 申込:SFRR Asia HP→ official Journalの下部のBOXを クリック!

シリーズ:酸化ストレスのつぶやき 第4回



中西 郁夫

独立行政法人放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター 先端粒子線生物研究プログラム レドックス応答制御研究チーム

学会ではスポーツでコスプレしているので、ご存じない方もいらっ しゃると思うが、私の趣味はボディビルである。大学入学と同時に ジムに入会し、かれこれ22年経つが、今でも週に5日のレジスタ ンス トレーニング、いわゆる筋トレは欠かせない。競技としてのボディ ビルでは、いかにバランス良く筋肉が発達しているか、体脂肪を 極限までそぎ落とし、薄皮一枚になった皮膚を通して、いかに筋 線維が目視できるか、などが審査のポイントとなる。ボディビルコン テストでよく聞かれる「デカイ!!!」というかけ声は前者の、「キレ てる!!!」というかけ声は後者の状態に対する最大の賛辞である。 しかし、デカくすることとキレていることを同時に追求することは生 理学的に不可能で、コンテスト出場を目指すボディビルダー(コン テストビルダー)は、1年を増量期と減量期に分けて生活している。 体脂肪を減らすためには、消費エネルギーが摂取エネルギーを 上回る状態、すなわち、エネルギー収支をマイナスにする必要が ある。しかし、体はこの状態を飢餓の危機と感知、体脂肪をなるべく 消費せず、筋肉のタンパク質を分解してエネルギーを得ようとする (糖新生)ため、大切な筋肉を失ってしまうことになる。そこで、と りあえず食べまくってエネルギー収支をプラスにし、筋肉も脂肪も 付けてしまおうという期間が増量期である。その後、コンテスト前3 ~4カ月ぐらいから減量期に入り、脂肪をそぎ落としてキレた体 を作り上げる。このため、コンテストビルダーは毎年10~20 kgの体 重の増減を繰り返しているが、1年で2 kgの筋肉を増やすことがで きればしめたものである。ちなみに私は、6年前に後輩の結婚披 露宴でポーズするために減量して以来、ずっと増量期である。 一方、筋肉が増えも減りもしていないときは、筋肉におけるタンパ ク質の合成と分解が釣り合っている状態である。しかし、加齢に伴 い分解が合成を上回ると、筋肉量は徐々に減ってしまう。従って、 コンテストビルダーほどストイックにならないまでも、元気なうちに 筋トレで筋肉を増やしておくことは、将来、寝たきりにならないため に重要で、医療費の削減にも大きく貢献できると考えられる。しか し、激しい運動をする上で、やはり気になるのは活性酸素種による 酸化ストレスである。私の研究分野はレドックス(酸化還元)化学 で、放射線によって正常組織で発生する活性酸素種を効率良く 消去し、放射線がん治療のさらなる高度化に貢献できるような放 射線防護剤の開発を行っている。くしくも本職と趣味の共通の敵 は、過剰に発生した活性酸素種である。レドックス化学とボディビ ルを通じて人類の健康寿命の延伸に少しでも貢献できればと、 日々、クルクミン(カレー)を飲みながら考えている。

JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報 (Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

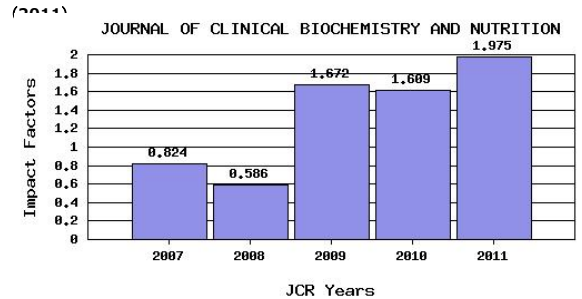
オンラインによる投稿随時受付中! 下記HPよりお入り下さい。 http://sfrj.umin.jp/JCBN.htm



Online SubmissionのURL

http://www.editorialmanager.com/jcbn/

現在の Impact Factor : 1.975



◇◇◇事務局より ◇◇◇

【会費納入にご協力下さい。】

日本酸化ストレス学会では、年度初め(毎年1月)に会費納入のご案内を 差し上げております。滞納が続きますと、退会処分となることがありますの で、必ず会費を納めてくださいますようお願い申し上げます。

【会員情報 変更・追加等連絡のお願い】

会員情報変更などが行われてない為に、連絡先不明となることが多発し ております。転居先不明などで連絡が取れない場合、学会情報などをお 送りすることが出来ません。

必ず、変更手続きを事務局宛ご連絡下さいませ、重ねてお願い申し 上げます。

【NL掲載記事について】

広報委員会では、NL記事の提案を随時受け付けております。取り上げて 欲しいことなどありましたら、事務局までご意見をお寄せ下さい。

◇◇◆ 新役員(2013年度より) ◆◇◇

新名誉会員:

福澤健治、谷口直之、牧野圭祐

新評議員: 4名

高山 房子 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 小嶋 伸夫 名城大学薬学部衛生化学研究室 浦野 泰照 東京大学大学院医学系研究科生体物理医学専攻 佐藤 公雄 東北大学大学院医学系研究科循環器内科学

SFRR Newsletter 2013年6月号 発行:2013年6月13日

SFRR Japan Newsletter に掲載を希望される方、あるいは、 ご意見などありましたら、下記事務局宛ご連絡下さい。

SFRR Japan事務局(広報委員会:内藤裕二・半田 修) 〒602-8566 京都市上京区河原町通広小路上ル梶井町465 京都府立医科大学大学院医学研究科消化器内科学内 TEL: 075-254-8520 FAX: 075-254-8521 E-mail: sfrj@koto.kpu-m.ac.jp HP: http://sfrj.umin.jp/index.htm